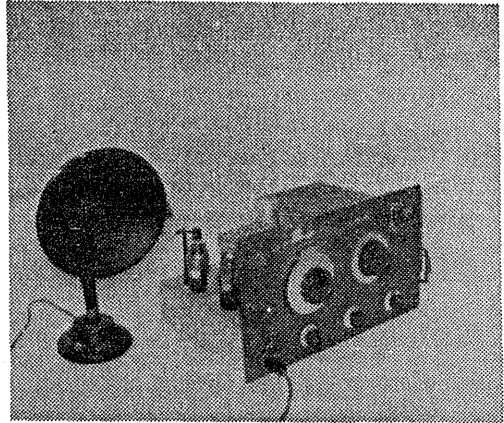
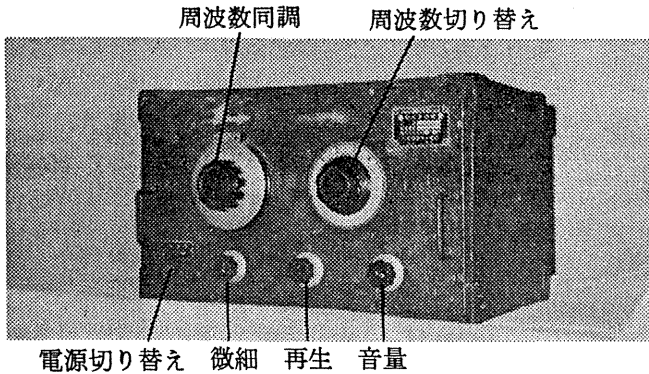


200字済

—— 昔 日 の 機 器 ——

船 舶 用 短 波 受 信 機

中川
[512]



船舶用 號型無線電信装置短波受信機

型 名 NMR 103 製造年月 昭和19年11月
 製造番号 ロー 2493 周波数帯 切り替え 1 2 3 4
 3MC-5MC-8.5MC-14MC-23MC

明治45(1912)年4月10日英国SOUTHAMPTON港から処女航海に出た豪華客船TITANIC号(46328トン)が同14日夜半大西洋の41-46N, 050-14W(NEW FOUNDLAND島沖)で氷山に衝突し沈没, 乗客, 乗員 1,500余の尊い人命が失われてから77年の歳月が流れました。

このことが契機となって1914(大正3)年ロンドンにおいて最初の海上における人命の安全に関する国際会議が開催され, 船舶に関するいろいろな事項についてすなわち, 例えば, 船体の構造, 救命設備の搭載, (タイタニック号では乗船定員全員が乗れる救命設備が搭載されていなかったという), 無線電信設備設置の義務化などがその内容でした。

船舶には, その種類によって定められた無線設備すなわち, 無線電信, 無線電話その他電波を送り, 又は受けるための電氣的設備を設置しています。

写真は日本の商船または漁船などで使用さ

れた受信機で, もちろんこの受信機以外の機器もありました。

受信機の概要は, オートダイナ方式, 周波数帯は3MHz~23MHzで4段切換となっています。

構成は高周波増幅部(UZ-6D6), 検波部(UZ-6C6), 低周波増幅部2段(UZ-6C6, UZ-42)となっていて, 電源部は蓄電池から供給される型ですから, 通常の実験機のような交流電源は内蔵していません。また海上で使うものですから外側ケース等すべて丈夫にできています。

私は海上移動業務に従事していませんので海上での使用経験はありませんが, 前身校の中央無線電信講習所では通信実践という授業科目があって, 船舶に乗船しても直ちに業務に従事できるように準備をさせるための機器として多数使っていました。時には故障もしましたが, なかなか性能のよい受信機でした。

現在では全く使用されていないと思いますが, 多くの卒業生が使用したことのある受信機の1つだと思います。(本学名誉教授 宮坂武芳)